



〈雑録〉我邦郵便貯金事業ノ創設ト前島男

下村, 宏

(Citation)

経済學商業學國民經濟雜誌, 9(2):269-278

(Issue Date)

1910-08

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051608>



雜 錄

我邦郵便貯金事業ノ創

設卜前島男

法學士 下村 宏

歐洲ノ文物制度ハ社會狀態ノ實際ノ必要ニ迫
ラレ或ハ新タニ制定セラレ或ハ之レニ改善ヲ加
ヘラル、ヲ例トスルモ最近四十年間ニ於テ歐洲
列強ノ間ニ伍シタル我國ノ如キ新進國ニアリテ
ハ先進國ノ實例ニ鑑ミ制度先ヅ行ハレテ民衆ヲ
率ユルニ出デタルハ固ヨリ怪シムニ足ラズ之ヲ
郵便貯金事業ニ徵スルニ英國ニ於テ千八百十年
私設貯蓄銀行ノ始メテ設立セラレテヨリ爾來五
十年間一面ニハ貯蓄銀行ノ發達ヲ視ルト同時ニ
一面ニハ之レガ取締監督ニ關スル幾多法令ノ發

布ヲ見タリシガ是等銀行ニ射利的ノ不正營業者
頻發シ屢々銀行ノ破綻ヲ見ルニ至リタルヲ以テ
千八百五十八年特ニ之レガ調査委員ヲ設ケ調査
ノ結果ハ從來ノ貯蓄銀行ニ對シ之レガ嚴重ナル
放資方法ニ對スル制限ヲ加フルト同時ニ事業ノ
信用ト普及トヲ期スルガ爲メニ政府ガ自ら郵便
貯金事業ヲ經營スベキコトヲ決定セリ是レ千八
百六十一年時ノ宰相グラッドストーン氏ノ提案
ニヨリ郵便貯金制度ノ實施ヲ見ルニ至リシ所以
ナリ。

英國ニ於テ郵便貯金制度ノ實施セラレテヨリ
歐洲大陸ノ各國ニ於テハ近ク對岸國ニ於ケル郵
便貯金ノ成績ノ頗ル良好ナルヲ見皆特ニ専門ノ
學者實際家ヲ派遣シ之レガ實地ノ調査ヲ怠ラズ
而モ之レガ實行ヲ見ルニ至リタルハ十年後ノ白
耳義ヲ第一トシ次デ七十六年伊太利ニ、八十年
羅馬尼ニ、八十一年和蘭ニ、八十二年佛蘭西ニ、
八十三年奧地利ニ、八十四年瑞典ニ、八十六年

匈牙利ニ、八十九年露西亞ニ、九十三年南亞共
和國ニ、千九百一年埃及ニ近クハ本年六月九日
ニ至リ北米合衆國ニ於テ郵便貯金法案ノ兩院通
過ヲ見ルニ至レリ。

如斯各國貯蓄銀行制度ノ既ニ發達セル經濟狀
態ニ於テ尙ホ英國ノ實例ニ鑑ミ對岸ノ制度ヲ實
施スルニ至リシハ概ネ二十年以後ノ事ニ屬セリ
而シテ我國ニ於テハ維新ノ革命後日猶淺ク社會
萬般ノ制度猶未ダ緒ニ就カザルノ際明治六年郵
便貯金ニ關スル法案ノ成立ヲ見八年五月即チ西
曆千八百七十五年白耳義ニ次デ英國ノ郵便貯金
創始後僅ニ十五年ニシテ之ガ實施ヲ見ルニ至リ
シハ英國ノ郵便貯金制度實施ノ必要ヲ見ルニ至
リタル所以歐洲大陸諸國ノ實施期ノ猶著シク後
レタル所以ニ徴シ又其制度先ヅ行ハレテ以テ民
ヲ導ク所以ノ顯著ナル事例トシテ見ルヲ得ベキ
ナリ即チ明治八年當時ニアリテハ山梨縣ニ興産
社ナルモノアリ貯蓄預金ヲ取扱ヒ明治十年三月

第十國立銀行トナリ預金事業ヲ經營シテ翌十一
年三月之レガ取扱規則ヲ制定シ大藏卿ノ認可ヲ
得タリ是レ國立銀行ニシテ貯蓄預金事務ヲ經營
セシ嚆矢ナリ貯蓄專業ノ銀行ヲ見ルニ至リシハ
明治十三年三月設立ノ東京貯藏銀行ヲ第一トシ
翌年川崎貯蓄銀行ノ創立セラル、アリ貯蓄銀行
ノ監理內規竝ニ取扱手續ノ制定ヲ見タルハ明治
二十三年三月ニシテ貯蓄銀行條令ノ發布セラレ
タルハ明治二十六年七月ナリ大阪貯蓄銀行東京
貯蓄銀行日本貯蓄貯金銀行ノ設立ヲ見タルハ何
レモ二十四年以降ニシテ歐米各國ノ實例ト全ク
相反シ郵便貯金先ヅ行ハレ次デ民間貯蓄銀行ノ
經營ヲ見ルニ至リタルモノナリ蓋シ社會狀態ノ
必要ニ伴フテ之レガ新設改善ヲ見タルハ從來ノ
制度ニ伴フ實際ノ利害關係上充分ナル研究ヲ要
シ又爲メニ幾多ノ反對ヲ生ズルハ數ノ免レザル
處ニシテ我國ノ如キ常ニ社會狀態ノ利害關係猶
未ダ淺キニ際シ制度先ヅ立ツテ之レヲ導クニ至

テハ之レガ創設ニ對スル障礙少キト同時ニ又之レガ創業時代ニ於ケル成立發達ニ於テ幾多ノ困難アルベキハ數ノ免レザル處ナリ如斯ハ鐵道ノ創設電話ノ開始近ク郵便振替貯金制度ノ創業等ニ際シ又等シク見タル處ナリトス

茲ニ本文ヲ草スル所以ノモノハ維新創業日猶淺キノ際郵便貯金事務創設ノ衝ニ當リタル前島男爵ノ實歷談ヲ好箇ノ史料トシテ紹介セントスルニアリ男爵ハ通信事業爲替貯金事業ニ通ジテ之レヲ我國ニ扶植シタル殊勲者ニシテ其貯金事業ニ關スル創業ノ苦心談ハ昨年七月郵便貯金局ノ設立ニ際シ貯金局共濟會月報紀念號發刊ノ舉アリ親シク之レヲ聽キテ同誌上ヲ飾ルコトヲ得タリ男ハ夙ニ我國ニ於ケル貯蓄思想ノ養成ニ就キ腐心苦慮スル處アリ海外ニ出デ、所謂「セービン、グスバンク」ナルモノヲ見非常ナル熱心ヲ以テ之ガ調査ヲ遂ゲ歸朝後直ニ是等材料ヲ本ニシテ規則其他ノ成案ヲ見ルニ至リシハ實ニ明治

六年ニシテ八年五月ニ至リ東京二十八ヶ所横濱ニ一ヶ所ノ貯金預リ所ヲ創設シタリ當時貯金事業ノ創設ニ際シ當時ノ文部卿木戸侯獨逸人マイエツト氏及ビ前島男爵ノ間ニ次ノ如キ逸事アリ或一日ノコトデアツタ文部卿ノ木戸孝允君ガ洋行カラ歸ラレ私ノ宅ヲ訪ネラレテ言ハレルニハ、自分ガ曩ニ伯林ニ居ツタ時獨逸人ノマイエツト氏ニ逢ツタ處ガ、同氏ハ日本ニ貯金制度ノ開設アランコトヲ欲シテ、我政府ニ斯フ云フ建議書ヲ出サレタカラ、君之ヲ熟讀シテ吳レトテ。英文ノ一書ヲ出サレタ、尙付言シテ云ハレルニハ一體貯金ノ事タル實ニ良法デアルカラ、是非之ヲ日本ニ移設シタイト思フガ、之ヲ實施スルニ就テハマイエツト氏ノ様ナ人ガ必要デアルカラ、同人ヲ日本ニ雇聘スル約束ヲ結ンテ來タ、同人モ其内ニハ來朝スルカラ、同人ト相談シテ其規則方法等ヲ研究シタラ好カラウトノ事デアツタ、俸給ハイカラカト聞ケバ三百弗ダトノコトデアツタ。

處ガ此話ノトキニハ、既ニ前ニ云フタ通り私ノ手デ貯金ニ關スル諸規則ハ成案トナリ、準備モ整ツテ居リ、來年ヲ待ツテ愈々開始ト云フコトニ定ツタトキダカラ、今木戸卿ノ話ヲ聞イテ心ノ内デハ何トナク氣ノ毒ノ様ニ感ジタガ、先ヅ其好意ヲ謝シテ、而シテ後私ハ徐ロニ自己ノ計畫シテアルコトヲ語

リ、尙又此事業タル我國ノ如キ貯蓄ノ習慣ニ乏シイ國デハ、先以テ根本的ニ國民ノ思想カラ變ヘテユカネバナラヌコトデアルカラ、十年タツテ成功スルカ、二十年三十年ニシテ普及セラルヘカ、殆ンド豫測ノ出來ナイモノデ、ツマリハ經濟思想ノ發達ニ俟タナケレバナラヌ永遠的ノ事業デアルカラ、到底一氣呵成的ニ發達ヲ望ムデモ其效ノナイ事ヲ說キ隨ツテ可成經費ヲ節セバナラヌコトデアルカラ、此際多額ノ俸給ヲ出シテ態々外國人ヲ雇聘シナクツテモ、本寮員ヲ指揮シテ實行上差支ナイト云フコトヲ話シタ。

之ヲ聞イテ居ツタ木戸卿ハ少々拍子拔ケノ様子デアツタガ聞キ終ルト共ニ忽チ感嘆ノ聲ヲ發シテ、ぢムサウデアツタカ自分ハ全ク君ニ於テ既ニ其計畫ヲ立テラレテ居ルコトヲ知ラナカツタ爲メ、君ニ勸メタノデアツタガ、今君ノ決心ト説トヲ聞イテ衷心國家ノ爲メ感謝ニ堪ヘナイ、願クバ本事業ノ前途ニ對シ成功ヲ祈ルト云フテ歸ラレタ。此獨逸人マイエツト氏ハ間モナク來朝ハシタガ、約束ノ役向ハ前ニ云フタ通りデアツタタメ、暫ラク大學教授デ文部省ニ雇ハレ、其後大藏省ノ顧問ヲ永ラクシテ居ツタ。

未ダ郵便貯金ノ實施ヲ見ザル獨逸ノ學者我邦文化ノ扶殖ニ力アリシマイエツト氏ガ又我郵便貯金事業ニ如此因縁ヲ有シタルコト當時ノ維新

元勳ガ泰西ノ文物ヲ消化スル爲メ如何ニ諸般ノ事物ニ通ジ苦心焦慮セルカハ之ニヨリテ又其一斑ヲ伺フニ足ルベキナリ。

當時封建ノ餘弊ハ金錢ヲ蔑視シ貨殖ヲ賤シミ貯蓄思想ノ尙幼稚ナリシハ言フ俟タザル所ニシテ當局者ハ進ムデ各方面ヲ通ジ之レガ勸誘獎勵ヲ圖リ殊ニ神佛敎導職ヲ說キ之レガ獎勵ニ當ラシメ島地默雷師ノ如キ爲メニ多大ノ勞ヲ盡サレタリ殊ニ當時ノ驛遞寮員ハ皆多少ノ釀金ヲ爲シ男爵ノ如キモ之レニ百圓ヲ寄附シ此等ヲ細民一千名ニ對シ一人ニ付十錢若クハ二三十錢宛ヲ與ヘ直ニ貯金トシテ預入セシメ又貯金勸誘ノ效アルモノニハ賞與ヲ與フル等頗ル苦心焦慮スル處アリシモ時勢尙未ダ豫期ノ效果ヲ舉グルニ至ラズ當時貯金ノ勸誘ニツキテハ幾多諭告書ヲ發シ特ニ左ニ掲グルモノハ驛遞寮ノ屬僚ニ告諭シタルモノニシテ今纔ニ男爵ノ許ニ存スルニ過ギザルガ故ニ特ニ其全文ヲ掲ゲ當時ニ於ケル貯金獎

屬ノ一片ヲ窺フニ便ナラシム

貯金預ケ所要旨

貯金預所ハ英語ニテ「セーヴ・イン・ア・バンク」即チ節儉貯蓄銀行ノ義ニシテ人々日常ノ費用ヲ節シ些少ノ金錢ヲ贏シテ之ヲ此所ニ託シ以テ保殖スルノ所トナスニ外ナラズ、然ラバ即チ其ノ事タルヤ甚ダ國家ノ大體ニ關セザル者ノ如シト雖モ然レドモ其結果ノ美效用ノ大ナルニ至リテハ之ヲ國家ヨリシテ謂ヘバ經濟ノ要具タリ之ヲ風俗ヨリシテ謂ヘバ篤厚ノ良媒タリ政府ハ實ニ之ガ開設ヲ忽セニスベカラザル所トシ又人民ハ實ニ之ガ開設ヲ希ハザルベカラザル所トス故チ以テ西洋各國苟モ其ノ美大ヲ確認スル者ハ必此方法ニ依據シテ其所チ開設セザルノ地ナシ

今夫レ經濟ノ點ヨリシテ之ヲ略述センニ軌近運輸ノ便ナル地租徵收ノ寬ナル商業工作ノ活潑ナル此三因ニ據リテ曩日集ルベキ所ニ集ルノ通貨ハ今日散シテ村市ニ分レ又細分シテ中等以下ノ人民ニ落テ終ニ其囊裡ニ沈滞シテ通貨本色ノ活動力ヲ懶廢セシムルモノ必ズ夥多ノ數ニ居レリ、今日通邑大都ニ於テ(商業ノ活潑ナルニ拘ハラズ)通貨ノ匱乏ヲ告ルモノ蓋シ其源之ニ因ル又工業ノ起スベキモノアルモ(工作ノ活潑ナルニ拘ハラズ)資本ノ饒足セザルヲ以テ事ヲ舉ル能ハザルモノ多少亦之ガ源ヲ爲サズンバアラズ、若シ夫レ之ヲ救済セント

シ政府ハ通貨ヲ増製センカ是レ爲スベカラザルノ事タリ然レバ之ヲ招集センカ固ヨリ道理ノ容レザル所タリ此ノ境ニ立チ此時ニ至リテハ有力ノ商工有辨ノ士民アリト雖モ將タ之ヲ奈何トモスベカラザルナリ但其之ヲ集合シテ工業貿易ノ資ニ供シ其活動力ヲ銳敏ナラシムルモノ即チ貯金預所チ開設スルノ一途アルノミ今之ヲ明證センガ爲メニ獨逸人某氏ノ建言ヲ摘譯シ之ヲ左ニ掲ゲテ以テ參考ニ供ス

(英吉利、瑞西、荷蘭、丁抹、伊太利、普露生、佛蘭西、奧太利、洪加利) 九國ノ面積ヲ統計スルニ其廣袤四萬六千六百四十方里(獨逸地理科ノ一里ニシテ一度チ十五里ト算フル者則大略日本ノ二里ナリ以下之ニ準ス)ニシテ貯金預所ノ數ハ七千八百五十四預金ノ統計ハ八億二千七十萬九百八十八圓ナリ然ルトキハ平均五方里ノ内預所一チ設ケ且一方里内ノ住民ヨリ預ケシ金額ハ二萬百八十二圓トス此ノ歐洲各國面積ノ平均數ニ準據比例シテ則大略五方里ノ内貯金預所一チ設ケ一方里ノ内預金二萬百八十二圓アルモノトセバ日本帝國ノ面積七千三百十五方里ナルヲ以テ預所ノ數ハ千四百六十三アルベク預金ノ總計ハ一億四千七百六十三萬三千三百三十圓ニ下ラザルベシ(英吉利、荷蘭、伊太利、普露生、佛蘭西、奧太利、サクソン那耳回、バーテン瑞典、バイエルン)十一國ノ住民チ一億四千八百五萬三千七百八十口トシ預ケ人チ七百四十二萬百三十

四名トス、然ルトキハ人口二十ノ内大概一名ノ預ケ人アルノ準ナリ而シテ此預金ハ通計六億五千五百四十五萬八千四百八十一圓アルヲ以テ之ヲ各人ニ平分スルトキハ一人ノ預ケ金ハ平均大略八十八圓三十四錢ナリ此歐洲各國人口ノ平均算ニ比例シ人口二十ノ内一名ノ預ケ人アル者トセバ帝國ノ良民三千三百十一萬五百三名アルヲ以テ百六十五萬五千五百二十五名ノ預ケ人アルベク且每人八十八圓三十四錢ノ預金アル者トセバ帝國必ズ一億四千六百二十四萬九千七十九圓ノ預ケ金アル準ナリ。

此人口ノ比例ニ依リテ得ル所ノ一億四千六百二十四萬九千七十九圓ノ總額ヲ以テ前條面積ノ比例ニ依リテ得ル所ノ一億四千七百六十三萬三千三百三十圓ニ較ブレバ殆ド吻合シテ懸殊ノ差異ナシ之ニ依リテ考フレバ帝國ニ於テ貯金預所ヲ開キシヨリ年度五十(西洋ニ於テ貯金預所ヲ開設シ其法ノ備リシヨリ今ニ至ル迄五十年ナルヲ以テ之ヲ一期トナシ目途ヲ立デシナルベシ)ヲ閱歷セシ後ノ景況ヲ憶算センニ大概前條二數ノ平均ヲ取リテ即チ少クモ一億四千七百萬圓ノ貯蓄アラント必ズ疑ヲ容レザルナリ。

貯金預所ノ貴重スベキ價值アルコトハ特ニ本所ニ於テ後年蓄積スル預金總額ノ莫大ナルヲ以テ稱セラルヘノミニ非ズ其間預ケ人ハ陸續繰戻シ金額ノ多少ヲ算シテ以テ其效用ヲ判セ

ザルベカラズ斯ニ一例ヲ舉ゲンニ壕太利ウインナ府中ニ一箇ノ貯金預所(千八百十九年設置)ニ於テ千八百六十八年十二月下旬ノ貯金ノ預高現數纔ニ二千六百六十九萬百九十六圓ナリト雖モ然レドモ其間漸次預ケ人ハ繰戻セシ金額ハ一億三千四百八十三萬八千八百圓ニ及ビ即チ現數ノ六倍餘ニ當レリ今此ノ比例ヲ以テ前條ニ開陳スル如ク帝國貯金預所開設ノ後年度五十ヲ閱シテ預リ高ノ現數一億四千七百萬圓ヲ存在スルモノトセバ則中間本所ヨリ陸續預ケ人ハ繰戻セシ金額ハ必ズ一億四千七百萬圓ノ六倍餘ニシテ即チ大略九億千四百三十四萬圓ナルベシ

果シテ某氏ノ說ノ如キヲ得バ財泉滾々トシテ涸渴ノ慮ナク周環流行ノ用實ニ通貨ノ真理ニ適ヒ濫觴ヨリ合シテ派トナリ又合シ脉トナリ千萬派脉湊合シテ一大富淵ヲ現出シ商業工作賴リテ以テ振興スベク商工士民賴リテ以テ其智能ヲ發揮スルヲ得ベク貯金預所ノ設置之ヲ國家經濟ノ要具ト贊賞シテ大ニ之ヲ隆興セシメザルベケンヤ

今又風俗ノ點ニ就テ之ヲ略述センニ凡ソ人強壯ニシテ衰老ノ後ヲ慮リ健康ニシテ疾病ノ時ヲ憂ヘ妻子アリテ之ガ養育ヲ思ヒ暑ニシテ寒豐ニシテ凶皆其後ヲ顧ミザル者アラズ、一念苟モ之ニ至ラバ即チ節儉貯蓄ヲ冀望スル良心ノ端ヲ發スルナリ世間往々既ニ其ノ端ヲ發シ從フテ之ヲ實踐スル者アルモ貯

蓄其ノ所ナ得ズ増殖其ノ方ナ得ズ或ハ忍耐ノ力ニ乏シクシテ
積塵ノ微チ今日ニ憂ヘ爲邸ノ大チ後日ニ忘レ一朝揮テ放資ノ
福媒トナシ或ハ狹隘者ノ奇貨トナリ終ニ瑣小ノ金錢ハ貯蓄シ
得ベカラザルヲ以テ常談トナシ老病寒凶之ニ備フルノ資ナク
シテ妻チ去リ子チ棄テ窘迫凍餓スルモ怙トシテ怪マザルノ慣
習ナナセリ類敗此ニ至ラバ姦詐百出豈徒爾爾窘迫凍餓シテ止ラ
ンヤ今此澆薄ノ俗チ敦薄シ細民チシテ篤厚者實ナラシメント
欲セバ廣ク貯金預所チ開設シ之ヲ懲導誘導シテ各人固有ノ良
心チ發作セシメ能ク瑣小ノ金錢チ貯蓄シ又安全ニ之ヲ増殖ス
ルノ所チ與フルヨリ急ナルハナシ今又之ヲ明證センガタメ英
人某氏ノ書牘チ左ニ抄譯シテ以テ各位ノ參照ニ供シ

我國貯金預所チ驛遞院ニ屬シ其規則チ鞏固ニシテ其貯蓄チ
安全ナラシメシヨリ

(疊日會社等種々ノ貯金預所ノ開設アリシニ動モスレバ分散等ノ弊アリテ)

預ケ主タル小民ヘ損害チ與ヘ積年勞苦ノ結果チ一朝ニシテ
水泡ニ歸セシメ爲メニ貯蓄ノ良念チ滅殺セシムルニ因リ政
府專ラ此事務チ執ルニ決シ之ヲ驛遞院ニ屬シタリ) 細民ノ預ケ主ハ大ニ其數チ増加
シ信任ノ思想チ彼是ノ間ニ堅カラシメ其ノ效驗タルヤ間接
ニ彼等ノ志操品行チ一變セシムルニ至レリ姑ク之ヲ例シテ
言ハム彼等細民ノ今日婚約チ爲ス事チ見ルニ男ハ百磅(概
ネ五百圓餘)貯ヘ女ハ五十磅貯ヘ合シテ百五十磅託シテ
預所ニ在リ頼リテ偕老チ約シ生兒ノ養育チ爲スニ足ルベキ

チ以テ早ク合衆チ爲スベシト言ヒ或ハ未ダ貯金多カラザレ
バ數年チ俟ツテ合衆チ爲スベシト言フチ以テ今日我國細民
ノ普通情況トナス夫レ人ニシテ忍ビ難キノ情慾チ忍ビ遠ク
老後ノ今ノ如クナラザルチ慮リ又生子ノ愛育セザルベカラ
ザルチ知ル皆是天賦良心ノ致ス所ニシテ之ヲ外ニシテハ法
典チ畏レ長上チ敬ヒ朋友チ愛シ交際チ慎ミ其行狀ニ現ハル
ル百般善良ナル者皆此效ニ非ルナクシテ而シテ其之ヲ擴張
スルニ及ビテハ終ニ溫厚篤實ノ風チ長フシテ大ニ澆薄懶惰
ノ習チ一洗スルニ足ルモノアリ抑斯著大ノ效其屆稟スル所
ハ果シテ何レニ在ルヤ僅々一志倫(概ネ二十五錢)ノ小貨チ
貯蓄スルヨリ始ルニ過ギザルノミ之ヲ以テ見レバ貯金預所
ノ設ケタル其要チ言ヘバ學校ノ上ニ位シ其德チ言ヘバ小學
ノ教育ニ多ク座チ讓ラザルナリ

之ヲ以テ見レバ貯金預ケ所ノ要ト德ト又總述チ待タズ然レ共
世人或ハ謂ハン今日本邦貧弱ノ小民ニシテ千圓ノ預金チ爲ス
ハ蓋シ至難矣ト夫レ然リ豈ニ夫レ然ランヤ此レ自棄者ノ言ノ
ミ若シ果シテ其念ノ崩壞スルアラバ之チ行フニ於テ又何ノ難
キカアラン但其之チ短折セシメザランガ爲メニ之ヲ獎勵シ或
ハ之ヲ勸誘シ能ク之ヲシテ忍耐不屈ノ力チ失ハシメザルニア
ルノミ方今小民ノ實況チ觀察スルニ三錢若クハ四錢チ節儉シ
テ一日或ハ一圓チ贏シ得ル者雇工社會ニ於テ猶且黠シトセズ
假リニ其人チシテ毎月一圓チ預所ニ託セシメ而シテ所ハ其ノ

規則ニ從ヒ毎六ヶ月ニ年六分ノ利ヲ計算ヘ三十年ヲ經ルニ及ハマ元金三百六十圓利子ハ六百三十圓三十二錢一厘合計九百九十圓三十二錢一厘即チ此元利殆ド千圓ニ達スベク若シ更ニ五年ヲ加ヘ(三十五年)シメバ千四百圓餘(元金四百二十圓利金九百八十圓五十四錢一厘)ニ達スベシ豈至難矣ト謂フベクンヤ能ク獎勵ノ方ヲ盡シ勸誘ノ宜キヲ得テ廣ク此ノ事業ヲ施スニ至ラバ人々喜躍シテ普ク此事ニ從フヲ願ハザル者ナケン試ニ謂ヘ人タル者男ヲ舉ゲテ之ニ家庭ヲ授ケ女ヲ舉ゲテ之カ貞婦ヲ求メザル者アランヤ試ニ謂ヘ兒ヲ舉グルノ時ヨリ毎月一圓ヲ預ケ滿二十年ニ達スルトキハ終ニ四百五十圓九十錢餘(元金二百四十圓利子二百一十七圓九十五錢九厘)ヲ得下等社會ニ於テ已ニ此貯蓄アルトキハ一家ノ産業ヲ營ムニ足リ又嫁娶ノ儀モ之ヲ整頓スルニ足ルニ非ズヤ試ニ謂ヘ中等ノ人ニシテ毎月五圓ヲ預ケタルニ於テハ二千二百八十九圓七十錢餘(元金千二百圓利金千八十九圓七十九錢五厘)ノ多額ヲ得別ニ心思ヲ勞セズ危險ヲ踏マズシテ此幸福ヲ享受スルニ非ズヤ

但累百ノ金ニ至レバ別ニ安全増殖スルノ道ナキニ非ザルヲ以テ現行貯金規則ハ之ガ制限ヲ立ルト雖モ即今累千ノ金モ亦此ニ依託センコトヲ欲スル者アルヲ以テ他日其制度ヲ解カレンコトノ理由ヲ勘査シ以テ請願スル所アラントス人既ニ子弟ノ冠婚ヲ顧念セバ奈何ンゾ父兄ノ喪祭ヲ潤略ニセン既ニ俯仰此二儀ヲ重ンズルヲ知レバ奈何ンゾ我レノ貧窶

ヲ甘ンズル者アランヤ既ニ貧窶ヲ甘心セザレバ豈我が本分ノ課業ニ拮据從事セザル者アランヤ我レ既ニ拮据從事シテ人ノ怠惰放恣ヲ見バ誰レカ之ヲ飲羨スルモノアランヤ其之ヲ厭忌スルハ必然ノ情勢ニシテ其ノ情勢ノ有力ナル大ニ篤厚忍耐ノ風ヲ振ヒ獨立不羈ノ氣象ヲ旺盛ナラシムベシ

本邦中等以下ノ民俗タル曾テ獨立不羈ノ氣象乏シク無事健全ノ日ハ偷安シテ其後ヲ思フヲ知ラズ一旦禍災病患ニ遭遇スレバ惶然首ヲ俯シテ唯政府ノ周濟ニ之レ頼リ其窮窘ヲ告ルノ羞耻タルヲ知ラズ滔々國體皆是レニシテ而シテ政府ノ之ヲ周濟スルヤ其惠渥カラザルニ非ラズ其ノ典美ナラザルニ非ズト雖モ亦或ハ此偷安ノ民俗ヲ養成セズト謂フヲ得ベカラザル也抑周濟ノ方必ズ其時ヲ擇バザルベカラズ能ク之ヲ周濟スル者ハ之ヲ禍災病患ノ日ニ施サズシテ之ヲ無事健全ノ日ニ行フ而シテ其之ヲ行フ所ノ方ハ何ゾ廣ク貯金預所ヲ開設シ能ク獎勵勸誘ノ術ヲ盡シ各人總分ノ貯金アラシメテ彼厲厚忍耐ノ風ヲ興シ日常備急ノ良心ヲ涵養スルニ在ルノミ果シテ斯ノ如クナレバ周濟ノ跡ナクシテ周濟ノ實舉リ昔日窮窘ノ民ハ皆卑屈ノ域ヲ出テ嶂々如兩間獨立ノ民タルベシ之ヲ彼ノ倉廩ヲ發キテ米粟ヲ當日ニ賑貸スルニ比スレバ其渥其美固ヨリ同日ニシテ語ルベカラザルナリ今又英人某氏ノ言チ左ニ舉ゲテ以テ之ヲ實ニセントス曰ク

政府ノ貯金預所ヲ開設スルノ舉ハ當ニ經濟風俗ノ二點ヲ善

眞アラシムルノミナラズ正サニ眞理公道ニ依リテ施行スル
濟貧賑窮ノ良法恩典ナリ

然リト雖モ大ニ斯業ヲ行ヒ廣ク斯民ヲ導クニ至リテハ決シテ
之ヲ短少ノ時間ニ望ムベカラズシテ而シテ能ク人ナ振作シテ
經久忍耐ノ風ヲ興サシムルハ必ズ屈匄不屈ノ有司者ニシテ綿
密ニ從事シ其起步ハ緩慢ニシテ塵埃ノ見レベカラザルガ如
キニ撓マズ其歲月ノ久シキ終ニ丘壑ノ效ヲ收ムルニ着意シ沈
毅ノ才幹アル者ヲ待ツテ而シテ後ニ之ヲ語ルベシ然リト雖モ
退テ又之ヲ思フニ本局ノ此業ヲ創メシヨリ未ダ數年ヲ閱セズ
本分事務綜理ノ傍ラ些少ノ經費ト數所ノ預所ヲ以テ試ニ之ヲ
開設セシモ現ニ四十萬圓餘ノ巨額ヲ預リ幾千眞民ヲシテ貯金
ノ要ヲ了知スルノ初步ニ進入セシメタリ之ヲ以テ推セバ吾國
民ノ良性質實ナル能ク之ヲ誘導スルノ方テ致サバ多ク歲月ヲ
閱セズシテ或ハ著大ノ效ヲ收ムルヲ望ムベキナリ今ヤ此事業
ヲ擴張スルノ方法ヲ案ズルニ方リ共ニ諮謀スル所アラシヤナ
欲シ前ノ數項ヲ説明ス僚屬各位ヨ益此業ヲ贊成シ大ニ斯ニ從
事シテ政府ノ盛意ニ報ハレンコトヲ庶幾ス

明治十二年八月某日

驛遞局長 前 島 密

上文中獨逸人某氏ト稱スルハ即チマイエツト
氏ニシテ其計數ニ關シテハ五十年ノ後ヲ憶算セ

ルモ之レニ對スル人口ノ増加富ノ増進ノ歩合及
ビ東西國民ノ富及所得ノ歩合ヲ認メザルヲ以テ
必ズシモ之レヲ今日ニ於テ律スベカラザルモ三
十五年前即チマイエツト氏ノ調査セル時代ニア
リテハ一六。七方里ニ對シテ一局所人口二〇人
ニ對シテ預ケ人一人一方里ニ對スル預金額二萬
百八十二圓人口一人當預金額四圓四十二錢七厘
預ケ人一人當預金額八十八圓三十四錢ナリシガ
現時ニ於テハ假リニ英伊和佛埃ノ五ヶ國ニノミ
就テ之ヲ見ルモ一。七方里ニ對シ一局所人口六
人ニ對シ預ケ人一人一方里當預金額三萬千二百
六十八圓人口一人當預金額二十圓預ケ人一人當
預金額百十九圓十二錢五厘ノ増進ヲ見ルニ至リ
我國ノ實狀ハ三十五年ナラズシテマイエツト氏
ノ五十年後ノ憶算ニ比シ既ニ一千二百六十三ノ
局所ハ事實約六千九百餘ノ局所トナリ明治八年
當時ノ三千三百萬人ニ對シ二十人ニ一人トシテ
豫期セラレタル預ケ人員百六十五萬五千餘人ハ

五千四百七十萬人ニ對スル一千四十三萬人ニ達シ人口ノ増加ニ加フルニ人口五人ニ對シ預人一人ノ歩合ニ増進シ而モ局所ニ於テ約五倍ニ近ク預ケ人員ニ於テ約六倍以上豫期ニ比シテ増加セラルヲ見ルベシ然カモ其預金額ニ至リテハ日露戰役以後異數ノ増進アリシニ拘ラズ未ダ豫期ノ一億四千六百餘萬圓ニ達セザルノ狀態ニアリ如斯ハ貯蓄思想ノ發達ガ猶未ダ充分ナラザルニ因ルベキモ主トシテ富ノ程度ノ猶幼稚ナルガ故ニシテ一方里ノ預金額ハ五千二百九圓人口一人當ノ預金額二圓三十六錢一厘預ケ人一人當預金額十二圓三十八錢四厘ノ低キニアリ即チ人口一人當リ預金額ニ於テ少クトモ猶今日ノ預金額ハ將來増加ノ餘地頗ル大ナルモノアルヲ見ルマイエツト氏ニシテ若シ現時ノ統計ヲ見ルトキハ又今昔ノ感一層深キモノアルベシ

郵便貯金事業ノ近時異數ノ發展ヲ來タスニ伴ヒ往時ヲ追懷スレバ感慨措ク能ハザルモノアリ

茲ニ貴誌上ヲ借り其創業當時ノ狀況ノ一片ヲ叙シテ前島男爵ノ功勞ニ對シ其幾分ヲ表彰スルコトヲ得ルハ余ノ最モ光榮トスル處ナリ。